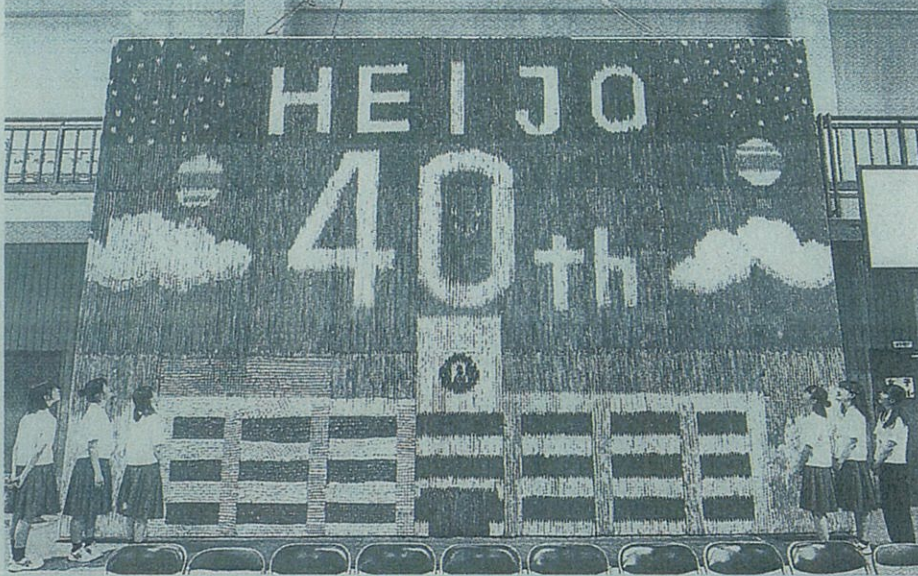


# 平城高 3学年そろそろ最後の文化祭

全校生徒が作った折り鶴で完成した巨大な折り鶴アート  
＝5日、奈良市朱雀2丁目の県立平城高校



# 全員の思い、折り鶴に

奈良市朱雀2丁目の県立平城高校（森田好博校長）の文化祭「平城山（ならやま）祭」がきょう6日と7日に開かれる。同校は県立高校再編の二環で令和4年3月に閉校することが決まっており、3学年そろっての文化祭はこれが最後。本年度は開校40周年の節目の年でもあり、記念になる思い出を残そうと、全校生徒が協力して巨大な折り鶴アートを制作した。作品は体育館に設置され、文化祭が地域住民に開放される。2日目の7日に一般公開される。

## 巨大アート制作、あす公開

## 「思い出を」生徒会が発案

折り鶴アートは縦5・4呎、横8・1呎と巨大。1クラス約1800羽の折り鶴を貼り付けたコンパネ（縦1・8呎、横90枚）を全クラス分、計27枚組み合わせて、「HEIJO」や「40th」の文字とともに、校舎を浮かび上がらせた。

「全校生徒が協力して記念になる思い出を残したい」と生徒会が発案し、6月中旬ごろから制作をスタート。休み時間などを使って1人40～50羽の折り鶴を作った。5日に体育館でコンパネを組み合わせて完成。電動ドリルを使ってコンパネを木枠に取り付ける作業も生徒が行った。

折り鶴アートは7日午前9時～午後2時に体育館で一般公開される。

生徒会の小林駿介さん（16）＝2年＝と武田果那

さん（17）＝同＝は「生徒全員が関われる作品として、折り鶴アートを選んだ。生徒一人一人の思いがこもった作品ができた」と話した。

井上徳之教頭は「全校生徒が一緒に一つの作品を作り上げるのは、なかなかできることではない。学校が閉校しても生徒たちの心の中に良い思い出として残ると思う」と語った。

県教委の再編計画では、

平城高校のほか登美ヶ丘、西の京の県立3校が閉校となり、新たに県立国際高校と県立大学付属高校が誕生する。平城高校の跡地には奈良高校が移転する。